

「おにぎり」で広がる宇和島の味 ～未来へ届け！ご当地おにぎり～

2年1組 赤松 真依 2年1組 本田 那菜美 2年1組 森田 ほのか
指導者 谷田 美穂子

1 課題設定の理由

農林水産省の調査によると、郷土料理を「受け継いでいない」と回答した人は全国で3割を超えており、特に若い世代でその割合が高いことが示されている(図1)。このことから、次世代を担う子どもを中心とした若い世代に、地域の食文化や郷土料理を継承していくことが課題であるといえる。

そこで本研究では、子どもにも親しみやすい「おにぎり」という形で宇和島の郷土料理や特産物を提供し、子どもへの郷土料理の普及および関心の向上がどの程度図れるのかを明らかにすることを目的とし、本テーマを設定した。

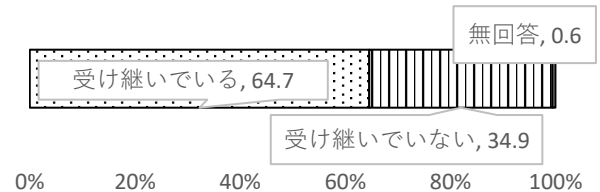


図1 食文化を受け継いでいる状況
(農林水産省 令和7年3月)

2 仮説

- (1) 郷土料理や特産物を「おにぎり」という形で提供することで、認知度や関心が高まる。
- (2) 講座やクイズを併せて実施することで、より高い関心を引き出すことができる。

3 研究の方法

- (1) 事前調査およびおにぎりの考案

宇和島市役所保健福祉部保健健康課およびうわじまグランマへのインタビュー調査を行い、地域食材や郷土料理に関する知見を収集した。それらを基に、宇和島の特色を生かしたおにぎり考案した。

- (2) 地域イベントへの参加および実践活動

ア 「こども食堂」への参加

うわじまグランマと連携し、子どもを対象に、郷土料理や地域食材を使用したおにぎりを提供した(図2)。併せて、食材や郷土料理への理解を深めることを目的に、ゲーム形式の学習活動を行い、プレゼンテーションを通じて食材の特徴を紹介した。活動後にはアンケート調査を行い、理解度や関心の変化を把握した。

イ 「ぱくパーク3～いつも＝もしも 知っとく！つながっとく！～」への参加

うわじまグランマと連携し、大人から子どもまで幅広い世代を対象に、改良を重ねたおにぎりを配布した。ステージ発表では、地域食材や郷土料理について紹介し、クイズやアンケートを通して参加者の理解促進および意識調査を行った。

ウ 「伊達な城下町 2025 ワクジマフェス」への参加

宇和島市子ども食堂連絡協議会と連携し、考案したおにぎりを配布し、アンケート調査を実施した。また、商業科地域探求班と連携し、体験型学習ブースを設置した。鯛めしやふくめんをテーマにしたゲーム体験を実施し、楽しみながら地域食文化を学べる機会を提供した。



図2 こども食堂パンフ

(3) アンケート調査の実施

アンケート結果を分析し、郷土料理や特産物の認知度や定着状況について検討した。

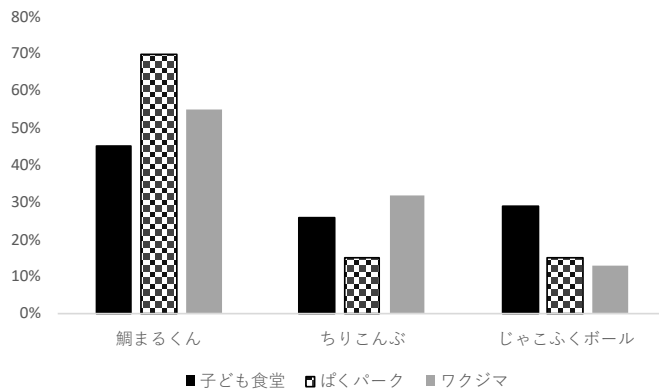


図3 イベント別好きなおにぎりアンケート結果

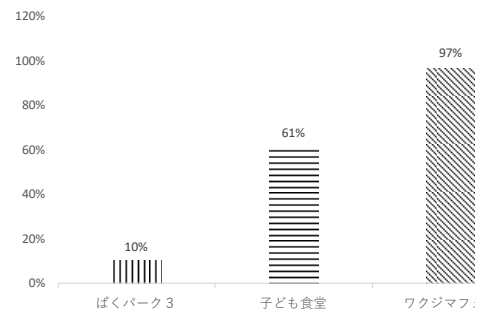


図4 アンケート回収率

4 結果と考察

「うわじまグランマ」や「宇和島市子ども食堂連絡協議会」と連携したことで、目標としていた「子どもへの郷土料理の普及」を一定程度達成することができた。単に言葉で説明するだけでなく、「おにぎり」という形で実際に食べもらうことで、子どもたちにとって地域食材をより身近に感じてもらえたと考えられる。また、ゲームを取り入れたことで、楽しみながら地域食材や郷土料理について学ぶ機会となった。

アンケート結果（図3）からは、鯛を使用したおにぎりが最も高い評価を得ており、参加者に好まれる傾向が確認された。これは、炊き込み風に調理したことでご飯自体に味がしっかりと染み込み、さらに子どもに人気の高いチーズをトッピングしたことにより、子どもでも食べやすいおにぎりとなったためであると考えられる。

また、アンケート回収率については、QRコードを配布し、後で回答してもらう場合（ワクジマフェス）よりも対面で実施した場合（ばくパーク3・子ども食堂）の方が高い結果を示した（図4）。この結果から、活動の中で直接的な関わりを持ちながら調査を行うことが、回答率の向上に寄与する可能性が示唆された。

5 まとめと今後の課題

本研究では、3回の地域イベントを通じて、郷土料理を「おにぎり」という身近な形で提供することで、子どもを中心に地域の文化への関心を高めることができた。鯛めし風のおにぎりにチーズをのせるアレンジを加えたおにぎりが好まれる傾向が見られた。少しのアレンジが加わることで、より好まれるようになることが示唆された。

また説明やクイズを併せて行うことで、「興味湧いた」「家でも作ってみたい」といった前向きな意見が多く見られ、食体験と学習活動を組み合わせることの有効性が確認された。

一方、アンケート回収法では、子どもにはシール形式、大人には紙媒体が有効であることが分かり、対象者の特性に応じた方法選択の重要性が明らかとなった。今後は活動を継続し、家庭や地域での実践へとつなげる仕組みづくりが課題である。

6 参考文献

- ・食育に関する意識調査報告書（農林水産省）
- ・日本の食生活全集（農山漁村文化協会）・宇和島の味 レシピ集（宇和島市食生活改善推進協議会）
- ・つなげよう 宇和島の味 ～郷土料理レシピ集～（宇和島市食生活改善推進協議会）
- ・宇和島市食育プラン〔第4次〕計画 令和7年3月